保護者　各位

南箕輪村役場　こども課

乳幼児期の予防接種のお知らせ

南箕輪村では、お子さんの体調に合わせて予防接種ができるよう、医療機関での個別接種を実施しています。下記の対象年齢に該当するお子さんは、**無料で予防接種を受けることができます。**

お子さんを感染症から守るため、接種時期や回数だけでなく、必要性や副反応についても十分理解された上で予防接種をしてください。

予防接種名	標準的な接種年齢と接種方法		回数	無料で受けられる年齢
小児用肺炎球菌	初回	生後２か月～７か月の前日までに 27 日以上の間隔で３回 **※２歳の誕生日までに終わらせましょう**	３回	生後２か月～５歳の誕生日の前日まで **※標準的な接種年齢で開始できなかった場合は接種回数等が異なりますので、こども課へお問い合わせください。**
	追加	生後 12～15 か月の前日までに、初回接種終了後 60 日以上の間隔をおいて１回。（生後 12 か月以降、初回接種終了後 60 日以上の間隔があいていれば接種可）	１回	
B型肝炎		生後２か月～９か月の前日までに、27 日以上の間隔をあけて２回、１回目の接種から 139 日以上の間隔をあけて１回	３回	１歳の誕生日の前日まで
５種混合 ジフテリア 百日せき 破傷風 ポリオ ヒブ	１期初回	生後２か月～12 か月の前日までに、２０日以上の間隔をあけて３回	３回	生後２か月～７歳６か月となる日の前日まで
	１期追加	初回接種終了後、１年～１年半の間隔をあけて１回（初回接種終了後、６か月以上の間隔があいていれば接種可）	１回	
BCG	生後５か月～８か月の前日までに１回		１回	１歳の誕生日の前日まで
ロタ	別添のロタ予防接種のお知らせをご覧ください。			
麻しん風しん（１期）	※１歳の誕生日の前月に予診票を送付します。		１回	生後１歳～２歳の誕生日の前日まで
水痘（水ぼうそう）			２回	生後１歳～３歳の誕生日の前日まで

予防接種の受け方

１．接種場所　別紙「令和７年度 予防接種協力医療機関一覧表」のとおり

※事前に医療機関へ予約してください。

２．持 ち 物　予診票　・　母子健康手帳

３．費　　用　無料

※　キャンセルの場合、キャンセル料（ワクチン代など）が発生する可能性があります。
※　対象年齢を過ぎると全額自費となります。

一般的な注意事項

（１）通知等をよくお読みいただき、必要性や副反応について理解された上で接種してください。わからないことは、予防接種を受ける前に必ず医療機関で確認しましょう。
（２）お子さんの日頃の様子をよく知っている保護者の方が医療機関に連れて行きましょう。
（３）予診票は、お子さんを診察して予防接種をする医師への大切な情報です。保護者の方が責任を持って記入しましょう。
（４）当日はお子さんの体温を測り、普段と変わった様子がないかよく観察しましょう。お子さんの体調が良くないときは無理せずに、予防接種を受けるのはやめておきましょう。
（５）村から転出後は、転出先で予防接種を受けていただくようになります。村発行の予診票は使用できなくなり、接種費用は全額自己負担となる場合もありますので、ご注意ください。

ワクチンの接種間隔

ワクチンには「生ワクチン」（ＢＣＧ、水痘、麻しん風しん、おたふくかぜ、ロタウイルスなど）と「不活化ワクチン」（小児用肺炎球菌、Ｂ型肝炎、５種混合など）があり、この中で異なった種類の「注射の生ワクチン」間のみ、接種した日の翌日から 27 日以上の間隔をあけなければ、予防接種ができません。

その他のワクチンについては接種間隔の制限はなく、接種した日の翌日以降に予防接種を受けることができます。ただし、あくまでも異なるワクチン間になりますので、同じ種類のワクチンを複数回接種する場合には、それぞれワクチンによって定められた接種間隔を確認し接種してください。医師の判断により複数のワクチンの同時接種も可能です。

予防接種を受けることができない場合

（１）明らかに発熱している。（通常 37 度５分以上）
（２）重篤な急性疾患にかかっている。
（３）予防接種によってアナフィラキシー（接種後、30 分以内にみられる呼吸困難や重いアレルギー反応）を起こしたことがある。
（４）その他、医師が予防接種をするのは不適当であると判断した場合。

予防接種の際に、医師とよく相談しなければならない場合

（１）心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている。
（２）予防接種後２日以内に発熱及び全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた。
（３）接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれがある。
（４）今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある。
（５）過去に免疫の検査をして異常を指摘されたことがある。または近親者に先天性免疫不全症の方がいる。

予防接種を受けた後の注意点

（１）予防接種を受けた後 30 分以内に急激な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡が取れるようにしておき、お子さんの様子を注意深く観察しましょう。
（２）接種後、生ワクチンでは４週間、不活化ワクチンでは１週間は副反応の出現に注意しましょう。
（３）接種当日はふだん通りの生活でかまいませんが、激しい運動は避けましょう。
（４）接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差しつかえありませんが、注射した部位をこすらないようにしましょう。

健康被害救済制度について

予防接種法に基づく予防接種により、重い疾病、障害、死亡等の健康被害を生じた場合には、予防接種健康被害救済制度によって、医療費の支給、障害年金の支給等が行われます。

救済制度の対象となる健康被害は、厚生労働大臣が予防接種と疾病・障害等との因果関係を認定したものに限ります。

健康被害救済給付の請求は、健康被害を受けたご本人やそのご家族の方が、予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村に行います。必要な書類は種類や状況によって変わりますので、ご相談ください。

ワクチンと病気の説明

【５種混合ワクチン】

・ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。主にのどに感染しますが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、咽頭に偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病後 2～3 週間後には、菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすこともあります。ジフテリアに感染しても症状が出るのは 10%程度の人だけで、大半は症状が出ない保菌者となります。保菌者を通じて感染することもあります。

・百日咳

百日咳菌の飛沫感染で起こります。1 歳未満でかかると重症化しやすく、早めの予防が肝心です。百日咳は普通の風邪のような症状で始まります。続いて咳がひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきの後、急に息を吸い込むので笛を吹くような音がします。通常、熱は出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなり、けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こすこともあり、乳児では命に関わることもあります。年齢が大きくなるほど症状は軽くなりますが、治癒までに通常１～２か月かかり、名前のとおり 100 日くらいかかることもあります。

・破傷風

破傷風菌は人から人へ感染するのではなく、土の中にいる破傷風菌が傷口から人の体内に入ることで感染します。菌が体内で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉の強直性けいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状が見られ、やがて全身の強直性けいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。患者の半数は自分では気づかないほどの小さな傷が原因で感染しています。破傷風菌は土の中に存在していますので、感染する機会は常にあります。

・ポリオ（急性灰白髄炎）

ポリオウイルスが口から入り、のどや小腸の細胞で増殖します。小腸の細胞で、ウイルスは４～35 日間（平均して７～14 日間）増殖すると言われています。増殖したウイルスは便中に排泄され、再び人の口に入り、免疫を持っていない人の腸内で増殖し、人から人へと感染します。ほとんどの場合は症状が出ずに一生免疫が得られます。症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳、背髄へ広がり、麻痺を起こすことがあります。ポリオウイルスに感染すると 100 人中５～10 人は風邪のような症状があり、発熱、頭痛、嘔吐がみられます。また、感染した人の中で、約 1,000～2,000 人に１人の割合で、手足の麻痺を起こし、一部の人にはその麻痺が永久に残ります。麻痺症状が進行し、呼吸困難により死に至る場合もあります。

・ヒブ（Hib）

ヒブとは、「インフルエンザ菌ｂ型」という細菌の略称です。インフルエンザ菌ｂ型は、中耳炎副鼻腔炎、気管支炎や、髄膜炎、敗血症、肺炎などの感染症を起こす乳幼児の重篤な病原細菌です。

【小児用肺炎球菌ワクチン】

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大原因のひとつです。多くの子どもが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった症状を起こします。肺炎球菌による化膿性　髄膜炎の死亡率や後遺症例（水頭症、難聴、精神発達遅滞など）は、ヒブによる髄膜炎より高く、約 21%が予後不良とされています。

【ロタウイルスワクチン】

別添のロタ予防接種のお知らせをご覧ください。

【Ｂ型肝炎ワクチン】

Ｂ型肝炎ウイルスは、主として血液を介して感染すると言われています。感染すると急性肝炎となり、そのまま回復する場合と慢性肝炎になる場合があります。急性肝炎の症状は、黄疸、全身の倦怠感、嘔吐などで、多くの場合は３か月以内に治癒しますが、一部に劇症肝炎を発症し、その場合は予後が良くありません。また、症状が出ないままウイルスが肝臓の中に潜み、年月を経て慢性肝炎、肝硬変、肝がんなどになることもあります。母子感染のほか、家族や身の回りにいる人から感染する可能性もあります。

【ＢＣＧ（結核）】

結核菌の感染で起こります。日本の結核患者はかなり減少しましたが、今でも毎年２万人前後の患者が発生しています。大人から子どもへと感染することも少なくありません。結核に対する抵抗力を赤ちゃんがお母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんも結核にかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

・ＢＣＧワクチンについて

ＢＣＧは牛型結核菌を弱毒化してつくったワクチンです。ＢＣＧの接種方法は、管針法といってスタンプ方式で上腕の２ヶ所に押しつけて接種します。それ以外の場所に接種すると、ケロイドなどの副反応が出る可能性が高くなるので、絶対に避けなければなりません。接種したところは、10 分程度で乾きます。

接種後 10 日頃に接種箇所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後４週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後３ヶ月までに治り、小さな傷あとが残るだけになります。これはＢＣＧ接種により抵抗力がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、絆創膏をはったりせずに、そのまま清潔に保ってください。ただし、接種後３ヶ月を過ぎても接種のあとがじくじくしているような時は、医師に相談してください。

・副反応について

接種をした側のわきの下のリンパ節がまれにはれることがあります。通常は様子をみてかまいませんが、時にただれたり、大変大きくはれたり、化膿して自然にやぶれて、うみが出ることがあります。このような時は医師に相談してください。

予防接種前に家族などからうつるなどして結核菌に感染している場合は、接種後 10 日以内に「コッホ現象（※）」が起こることがあります。通常の副反応における接種局所の状態の発現時期（おおむね 10 日前後）と異なり、接種後数日間の早い段階で発現します。コッホ現象と思われる反応がお子さんにみられた場合は、速やかに医療機関を受診してください。この場合、お子さんに結核をうつした可能性のある家族の方も医療機関を受診するようにしましょう。

※接種局所の発赤・はれ及び化膿等がみられる。通常２～４週間後におさまり、治癒する一連の反応

予防接種後の副反応について

ワクチンの種類によっても異なりますが、接種部位が赤くなってはれたり、しこりが見られたり、発熱することがあります。しこりは少しずつ小さくなりますが、数ヶ月残ることもあります。特に過敏な子で、肘を越えて上腕全体が腫れた例が少数ありますが、これも湿布等で軽快しています。

予防接種を受けた後、接種部位のひどいはれ、高熱、ひきつけなどの症状があった時には、医師の診察を受けてください。

ワクチンの種類によっては、極めてまれに（百万から数百万人に１人程度）に脳炎や神経障害などの重い副反応が生じることもあります。このような場合、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期の予防接種によるものと認定した時は、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

≪予防接種に関する問い合わせ先≫

南箕輪村役場　こども館内　こども課　母子保健係

ＴＥＬ 0265-98－8310（直通）